

## 大学日本語コース用漢字教材の開発実践報告 —より効果的な自律学習の促進のために—

矢吹ソウ典子・犬塚久美子  
ヨーク大学

### 要 旨

グローバル化や IT 化に伴い、日本語学習者を取り巻く環境は日々変化しており、漢字を学ぶための教材もそれに対応していく必要がある。非漢字圏地域で日本語を学ぶ学習者にとっては、日本国内の学習者に比べ教室外で漢字に触れる機会が限られている上、市販の教材では多様なニーズに対応できないことが多い。そのような状況を鑑み、筆者らの所属する大学では、自律学習の促進を念頭に、独自の読解教材に準じた漢字教材「漢字リスト」を新たに開発した。本稿では、この教材の作成過程を具体的に提示し、アンケートに基づき学習者が使用する様々な学習ストラテジーおよび学習者の新教材に対する反応を報告した上、一般に開発・公開されているオンライン教材との比較調査を基に、漢字教材のさらなる改善策について考察する。結論として、より効果的な教材の開発には、内容や機能の充実化に加え、使用する学習者の見解も考慮し、自律的な学習ができるよう改善を重ねていく必要があることが示唆される。

### 1. はじめに

グローバル化が進み、学習者の言語的背景や学習環境のテクノロジー、それに伴う学習者のニーズが多様化している。當作 (2017) は、変化の激しい現代の社会において、日本語教育の目標は教科の内容を教えることに留まらず、21 世紀を生きることができる学習者を育てるべきであるとし、教師の役割は「日本語教育を通して、今の時代を生きる能力を賦与すること」(p. 1) であると主張している。日本語教育は単に学内で教師側からの一方通行で完結するのではなく、学習者自身が主体的に学びを進めるこ

とができる環境を与えること、さらに学外でも学びを深めていくことができる自立した学習者を育てることを目標とするべきであろう。学習方法においても、従来の型に留まらず学習者自身がさまざまなリソースを主体的に利用できる自律学習 (autonomous learning) の促進が重要である。

非漢字圏で外国語として日本語を学ぶ学習者にとって、自律学習を阻む大きな壁となるのが漢字である。教室外で漢字に接触できる機会が限られている上、市販の漢字教材では個々のニーズにあてはまらないことがある。学習者が大学生である場合、その認知レベルに最適な語彙、つまり自分の考えを表現する際に必要な漢字や単語が、日本国内外両方の学習者を対象とした『げんき』 (坂野他 2011) などの総合的な教科書で、一定のトピックの読み物に従って提示される語彙の順番に必ずしも一致しない。学習者がより効果的に漢字を習得できるようにするためには、教室外での自律学習を促進する漢字教材を開発し、その内容や形式を絶え間なく検証していくことが必要である。学習者のニーズを考慮した教材を提供することにより、自律的な学習を促し、将来的に自立した学習者を育てることになる。本稿では、当大学での二年生以上のコースで使用する新漢字教材の開発とその検証の試みについて、作成過程・学習者からの反応・オンライン教材との比較調査を基に報告する。

## 2. 「漢字リスト」の作成過程

### 2.1 背景

筆者らが所属するカナダの大学の日本語科では、一年生から四年生までのコースがある。各コースの一年間の授業時間は 96 時間で、コース終了時のレベルは「日本語能力試験」合格基準に合わせた場合、一年生が N5 程度、二年生が N4 と N3 の中間程度、三年生が N3 と N2 の中間程度、四年生が N2 と N1 の中間程度である。一年間のコースを終了した時点で、学習者は 800 語から 1000 語の日本語語彙を有し、漢字は約 150 字程度、

日常的なやり取りを日本語ですることができることが望ましいとされている。二年間のコースを終了した時点の目標は、1500 語から 1900 語程度の語彙を有し、漢字は 450 字程度の知識を習得することである<sup>(1)</sup>。


当大学の日本語科では、全部のコースで市販の教科書ではなくプログラム独自のオンライン教材を用いている。これはカナダで日本語を学ぶ大学生に合わせた会話や読み物を導入することで、より有用な語彙・表現の習得を促すためである。一年生で扱う漢字に関しては、表 1 で示すように、プログラム内で開発した教材に準拠する 120 字を導入している。

表 1 一年生のコースで導入される漢字 120 字

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	口	日	白	百	入	人	木	本	小	大
中	分	何	行	言	語	千	万	円	来	子	学	先	生	年	上	下	手	門	間
月	火	水	金	土	山	寺	時	々	曜	田	力	男	女	今	週	見	目	貝	買
川	耳	聞	父	母	安	高	半	朝	毎	待	持	右	左	新	私	車	書	強	勉
前	後	午	昼	食	飲	飯	事	屋	名	英	着	晚	東	駅	住	休	外	出	帰
同	国	雨	雪	電	会	社	京	気	元	心	思	長	読	話	色	茶	友	作	文

二年生以降は、2013 年まで市販の漢字の教科書 *Japanese Kanji and Kana* (Hadamitzky & Spahn, 2012) を使用し、学習者には毎週 20 字の漢字を自習してくるよう指導して、毎週の漢字の小テストで習熟度を評価していた。図 1 はこの教科書の 503 番の漢字「始」の例である。

図 1 *Japanese Kanji and Kana* の一例

	<b>503</b>	<b>SHI, haji(maru)</b> – (intr.) start, begin <b>haji(meru)</b> – (tr.) start, begin
	3e5.9 田	始末 <i>shimatsu</i> circumstances; management, disposal 305
	女 日 厶	始終 <i>shijū</i> from first to last, all the while 466
	/25 24 17	開始 <i>kaishi</i> the first (train) departure; beginning, opening 400
	始	原始的 <i>genshiteki</i> primitive, original 136, 210

©2012 by Wolfgang Hadamitzky and Mark Spahn  
This image from *Japanese Kanji and Kana* is reproduced with permission from Tuttle Publishing.

*Japanese Kanji and Kana* では、個々の漢字を主に部首ごとに紹介してあるので類似の形のもの（例：「便・使・史」）がまとめて覚えやすい。その一方、例文がないため実際の使用例が分かりにくく、学習者の語彙力強化につながられるかが不明であった。また一つの漢字につき5つ前後の漢字語彙の用例が紹介され、その中にはカナダで日本語を教えている教員二名の目から見て二年生のコースの時点で大学生があまり使用しないと思われるもの（図1の例では「始終」「原始的」など）も含まれていた<sup>(2)</sup>。

二年生と三年生のコースでは学習者の漢字の語彙を増やすためにこの漢字教材を使用していたが、漢字の導入順や内容が教室で使用する教材とは関連していないため、それまで順調に進んできた学習者が、膨大な数の漢字語彙を習得することができず、その負担がもとで日本語の学習を続けること自体を挫折してしまうケースも見られるようになってきた。そのため個々の漢字の導入だけでなく、学習者の学習動機を促し、発話・作文に使いやすく学習者にとって「意味のある」漢字語彙の習得により焦点を合わせた新漢字教材を開発することが必要となった。

新漢字教材の開発にあたり、まず大学での日本語コースで導入すべき漢字数を決定する必要があった。文化庁（2010）は2136字を常用漢字と定めている。川口さち子（2010）はヨーロッパの漢字教育を調査した結果、日本語を主専攻として設けている機関では大学三年時までには1000から1500字の習得を目指していると報告している。しかし、個々の漢字だけでなく漢字を組み合わせで造られる漢字語彙を含めると、学習者が覚えるべき語彙は膨大な数になる。川口義一（2010）が主張するように「そのすべてを学ぶことは不可能であり、また不必要である。学習者個人にとっては、自分が必要とし、覚えて『意味のある (meaningful)』漢字を覚えればいい」（p. 7）と言える。また、徳弘（2008）は高頻度の漢字の造語性を調査した結果、頻度順に上位から約1000字目以降の漢字では造語性が大きく下がることを示している。すなわち、1000字程度の漢字を学習し

ておけば、その後日本語学習を継続していく上での基礎となる漢字知識が習得できることが期待できる。

以上の理由から、当大学の日本語科では、三年生のコース終了時まで合計 1000 字の漢字を導入し、読解に重点を置く四年生のコースに備えることを目標にし、「漢字リスト」を作成した。このリストは、一年生で導入された漢字 120 字に積み重ねる形で、二年生用の 400 字・三年生用の 480 字の漢字を新たに選んだ上、それぞれの読み・意味・用例等を表にしたものである。この新教材は、学習者全員に同じ漢字や漢字語彙を提示しすべてを覚えさせるのではなく、基礎的な漢字の知識を身につけた後、各自が必要とする漢字を自律的に学習できるように手助けすることを目標としている。以下では二年生の「漢字リスト」の作成過程を、新出漢字の選択・導入順序、およびリストの形式の順に説明する。

## 2.2 新出漢字の選択基準と選択方法

二年生で導入する 400 字の選択方法としては、次の手順を踏んで行なった。まず文化庁 (2010) が発表した「漢字出現頻度表」を参照し、「新聞」「ウェブ」「凸版」のそれぞれのメディアに出現する頻度順から、一年生で導入される 120 字を除く上位からの 450 字前後を抽出し、三つに共通して頻度数の高い漢字を上位から順に選んだ。400 字の漢字の選択基準として、特に①一般使用頻度が高いもの、②造語性があり複数の漢字語彙になるもの (例: 「世・員」)、③名詞に加え基本的な動詞・形容詞に使われるもの (例: 「変・正」)、④基本的な部首となるものを含むもの (例: 「豆・矢」)、⑤大学生が日常のことがらを理解・表現するのに使えそうなもの (例: 「(試験を) 受ける」の「受」) が幅広く選択されているかを考慮した。次に、これらの漢字がすべて日本語能力試験旧 4～2 級レベルの漢字 (日本語能力試験の漢字 2006) に含まれているか確認し

た。これらの作業を上記の①～⑤の選択基準を念頭に二名の教員が個々に行い、最終的に共通して選ばれたものから順に採用した<sup>3)</sup>。

### 2.3 新出漢字の導入順序

上述の 400 字の選出後に、週ごとに 20 字ずつ導入するための漢字の全体の配列順序を決定した。その方法として、二年生の読解教材で使われる漢字の導入順を念頭に配列し、読解教材と新出漢字の導入の時期が重なるようにした。それに加えて、全体的に画数の少ないものから多いもの、または 2.2 で述べた基準に基づき使用頻度の高いものから低いものに移行していくようにした。また (1) の例に示すような漢字はなるべくまとめて配列した。

(1) 同じ部首が含まれているもの (例：官・館、問・開・閉)

意味的に関連のあるもの (例：春・夏・秋・冬)

熟語を構成するもの (例：自・信、字・漢)

表 2 は、二年生の「漢字リスト」のために作成した全体の表<sup>4)</sup>の一部である。

表 2 二年生「漢字リスト」の表 (最初の 20 字)

121	<a href="#">121</a>	<a href="#">122</a>	<a href="#">123</a>	<a href="#">124</a>	<a href="#">125</a>	<a href="#">126</a>	<a href="#">127</a>	<a href="#">128</a>	<a href="#">129</a>	<a href="#">130</a>
- 130	正	校	風	変	員	都	字	世	漢	申
131	<a href="#">131</a>	<a href="#">132</a>	<a href="#">133</a>	<a href="#">134</a>	<a href="#">135</a>	<a href="#">136</a>	<a href="#">137</a>	<a href="#">138</a>	<a href="#">139</a>	<a href="#">140</a>
- 140	自	信	己	交	官	館	専	問	開	閉

この表では、年間を通して導入する漢字に通し番号をつけ、そのハイパーリンクをクリックすることで該当の漢字の情報が見られるようにした。こうしてできあがった各週に導入する 20 字の各漢字リストを、他のコース教材と共にオンラインで学習者がアクセスできるようにした。

## 2.4 「漢字リスト」の形式

図2は「漢字リスト」の「始」の例である。

図2 二年生「漢字リスト」の一例

#333	シ はじ(まる)、はじ(める)		すう 画数	部首	こうせいようそ 構成要素
始	始	start, begin	8	おんなへ ん	女+台→始
	始				
Core words	始まる はじまる 開始(する) かいし(する)	start, begin beginning, opening; begin, open			
Useful words	始業 しぎょう 始末 しまつ	the start of work circumstances, management			
例文	仕事探しを始めました。(L29R)	(She) has started job hunting.			
例文	始業式は午後1時に開始します。	The opening ceremony will start at 1pm.			

形式としては、一字についての情報を紹介した上、用例の漢字語彙と短い例文を提示した。紹介する漢字のフォントは教科書体を含めて3種類にした。これは、学習者が手書きでその漢字を産出する際に教科書体が最も参考になり、また違った種類のフォントでも学習者が同じ漢字を認識できるようにするためである。また、YAMASA 言語文化学院の許諾を得て、個々の漢字の番号に書き順アニメーションへのリンクをつけた。それぞれの漢字の読みは、音読みはカタカナ、訓読みはひらがなで表記し、画数・部首・構成要素も提示した。漢字語彙と例文は、①『改定常用漢字表』（文化庁 2010）に含まれる漢字語彙例、②*A Frequency Dictionary of Japanese* (Tono et. al, 2013) の例文、③漢字導入時の二年生の読解教材、④インターネットでの使用例の検索などを参考に、教員二名が評価・修正し合いながら考案・作成した。漢字語彙の用例は、①から④に共通して出てくるものの中から選んだ3~4語を、読解教材に出てくるものを優先した“Core words”（「必ず覚える単語」）、教材には出てこないが教員

二名がよく使用されると判断した“Useful words”（「知っているのが望ましい単語」）の二種類を設定し、各学習者が必要に応じて学習しやすいように配慮した。また、使用頻度が高く二年生のレベルで役に立つと思われる漢字語彙は、その漢字の導入時点で未出のものを含んでいても、ふりがなをつけて紹介することとした。例文は極力短く、またなるべく二年生の読解教材にあるものを使い、それが現れる箇所を明記した（例：「仕事探<sup>さが</sup>しを始めました。」（L29R\*）—注：L29Rは「29課の読解」の意味）。

さらに自習用副教材として、「漢字リスト」で紹介されている例文に絵や写真をつけたパワーポイントのスライドを作成した上、学習者が自分で読みの練習ができるようにした。図3はその一例である。

図3 パワーポイントのスライドの例（一部抜粋）

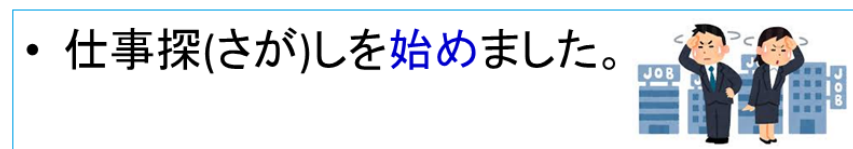
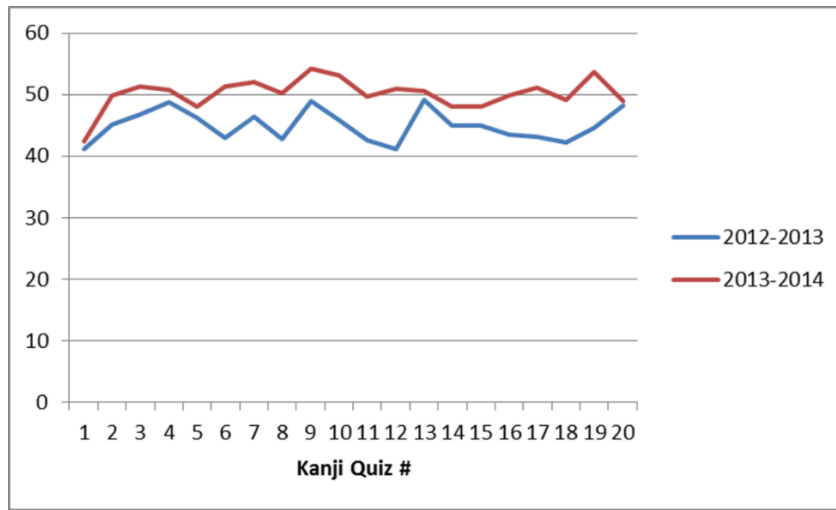


図4は「漢字リスト」導入以前（2012年度）と以後（2013年度）の二年生のコースでそれぞれ一年間20回に亘って行なった漢字小テストの結果を比較したものである。一回のテストは60点満点で、前者は38名、後者は41名の学習者が小テストを受けていた。対象となる漢字そのものが変わっているので直接の比較はできないものの、「漢字リスト」導入後の平均点がそれ以前に比べて上昇する傾向が見られた。小テストの結果を見る限り、「漢字リスト」は学習者の漢字習得の意欲を保持できるものであったと考えられる。



図4 旧教材使用時と新教材使用時の漢字小テスト平均点の比較



### 3. 「漢字リスト」への反応と学習ストラテジーに関するアンケート調査

#### 3.1 背景

「漢字リスト」を2013年に開発・使用し始めてから三年後の2016年、学習者がどのように新教材に反応しているかを検証するためにアンケート調査を実施した。アンケートでは、学習者は(1)漢字学習全般をどうとらえているか、(2)漢字自習のためにどんなストラテジーを使用しているか、(3)「漢字リスト」をどう評価しているかを明らかにすることを主眼とした。

#### 3.2 参加者

2014年から2016年の間に二年生のコースを履修した学習者57名(2014年度は履修者47名のうち9名、2015年度は履修者48名のうち48名)が匿名のアンケート調査に協力した。57名のうち48名は一年生から継続してコースを履修していたが、残りの9名は他の機関、もしくは独学で日本語を学習した。教室内での使用言語は日本語と英語である。学習者の第一言語に関しては匿名性を守るために質問はしなかったが、家庭で漢字に接触する機会があったかどうかについては確認した<sup>(5)</sup>。その結果、(1)授業以外で漢字との接触があり普段よく使うと答えた学習者が16名、(2)少しある

と答えた学習者が16名、(3) 残りの25名は漢字との接触がないと回答した。そこで(1)と答えた者を「漢字に接触あり」、(3)と回答した者を「漢字に接触なし」というグループにし、グループ間で結果に違いが見られるかも分析することにした。その際教室外で漢字への接触が少しあると回答した(2)のグループはグループ間の比較分析からは除外した。

### 3.3 実施方法

実施方法としては、参加者の一年間の授業履修後、今後の「漢字リスト」の改善のための調査として、Moodle<sup>6)</sup>を利用した任意でのアンケートの記入を依頼した。設定を無記名にし調査者には誰が何を記入したかが分からないことも伝えた。アンケートの質問項目は英語を使用し、合計34問を準備した。

まず、学習者が漢字学習、特にその困難さについてどう感じているのかについて(設問3~4、25~27)、5段階のリッカート尺度から一番適当だと思える答えを選択するように指示した。例えば「設問4：二年生の漢字の学習は暗記の量が多いから大変である」という項目に対し「5 非常に同意できる」「4 同意できる」「3 どちらとも言えない」「2 同意できない」「1 全く同意できない」の5つの選択肢を用意した。

学習者がどんな漢字学習のストラテジーを使用しているかを尋ねる設問(設問5~24)は、Gamage (2003)<sup>7)</sup>に準拠している。Gamageのアンケート調査では、新出漢字の形・意味・発音の覚え方について、繰り返して覚える作業から類似の形のをまとめて覚えるなどの認知能力を利用して学習する方法まで、様々なストラテジーを網羅している。学習者は自分に一番当てはまるものを選ぶように指示された。例えば「設問5：漢字の形は絵と関連づけて覚える」という質問に対し、「5 非常に有効な方法で、よく使う」「4 有効な方法で、時々使う」「3 どちらとも言えない」「2

あまり有効ではないので、あまり使わない」「1 全然有効ではないので、使わない」の5つの選択肢があった。

学習者が「漢字リスト」をどう評価するかについて（設問28～34）は、リッカート尺度から選択するものと自由回答で意見を書く設問の二つの形式を採用した。自由回答では「漢字リスト」の長所・短所に加え改善点について記入するように指示した。

### 3.4 調査結果

表3はアンケート調査の結果をまとめたものである。リッカート尺度を使用した設問については回答の平均値を示し、平均値が5に近ければ学習者は設問内容についてより肯定的に捉えていることを示している。

表3 アンケート調査の設問とグループ別の回答の平均値

	グループ（漢字への接触）	全員	あり	なし
	人数	57	16	25
1	Before you started JP2000, where did you study Kanji before? *			
2	Have you had much exposure to Kanji in your first or home language?			
3	There are many more kanji to memorize in JP2000 compared to JP1000. *	4.46	4.43	4.58
4	It was difficult to study Kanji in JP2000 because there are more to memorize.	3.80	3.60	4.00
5	I learn the shape of a new kanji by creating associations between pictures and kanji.	3.00	2.40	3.28
6	I learn the shape of a new kanji by creating associations with (a) kanji already learnt.	3.75	3.10	4.16
7	I learn the shape of a new kanji by creating associations between kanji and the shape of the alphabet.	2.05	1.90	2.24
8	I learn the shape of a new kanji by grouping the kanji with other kanji containing the same radical (part of kanji).	3.69	3.60	3.72
9	I learn the shape of a new kanji by practicing with my finger in the air.	2.71	2.70	2.28
10	I learn the shape of a new kanji by remembering the stroke order.	2.95	2.94	3.00
11	I learn the shape of a new kanji by writing it on a piece of paper.	4.41	4.50	4.24
12	I learn the meaning of a new kanji by grouping it with other kanji having similar meanings.	3.14	3.47	3.16

13	I learn the meaning of a new kanji by creating a story with its meaning.	2.54	2.60	2.56
14	I learn the meaning of a new kanji by remembering the kanji in a meaningful sentence.	3.39	3.60	3.36
15	I learn the meaning of a new kanji by associating it with other kanji that mean the opposite.	2.54	2.60	2.60
16	I learn the meaning of a new kanji by remembering the meaningful radicals.	3.46	3.10	3.52
17	I learn the meaning of a new kanji by remembering the meaning while writing with the kanji on a piece of paper repeatedly.	4.23	4.10	4.24

18	I learn the pronunciation of a new kanji by placing it in a group with other kanji that have the same pronunciation.	2.46	3.10	1.96
19	I learn the pronunciation of a new kanji by associating it with a sound of a familiar word from the mother tongue (my first language).	2.98	4.10	2.20
20	I learn the pronunciation of a new kanji by remembering it as a part of a compound word rather than an individual kanji.	3.61	3.50	3.60
21	I learn the pronunciation of a new kanji by associating it with other kanji which have the same radical with the same pronunciation.	3.02	3.50	3.60
22	I learn the pronunciation of a new kanji by repeatedly pronouncing it while looking at it.	3.44	3.80	3.20
23	I learn the pronunciation of a new kanji by reading aloud while writing it.	3.88	3.90	3.72
24	I learn the pronunciation of a new kanji by remembering both "on" (Chinese pronunciation) and "kun" (Japanese pronunciation) at the same time.	3.33	3.90	3.05

25	It was difficult to study Kanji in JP2000 because of how the Kanji were presented.	2.53	2.80	2.64
26	It was difficult to study Kanji in JP2000 because there are not enough examples presented.	2.53	2.80	2.64
27	It was difficult to study Kanji in JP2000 because the Kanji presented did not relate to the reading materials.	2.77	2.60	2.92
28	How would you rate (your satisfaction with) the content of each Kanji list?	3.58	3.44	3.60
29	How do you find studying of Kanji characters and related vocabulary in general as part of your leaning Japanese?			
30	How satisfied are you with the time and efforts you allotted yourself to prepare for each weekly Kanji quiz?			
31	Features of the Kanji Lists that you liked			
32	Features of the Kanji Lists that you did not like			
33	How could those features (that you did not like) be improved?			
34	Any other comments on Japanese class in general			

(注：JP1000=一年生コース、JP2000=二年生コース)

以下、学習者の (1) 漢字学習全般への感想、(2) 使用している漢字自習のためのストラテジー、(3) 「漢字リスト」への評価の順に報告する。

### 3.4.1 漢字学習全般についての感想

まず、一年生に比べ二年生で暗記する漢字の数が多い(設問 3) という記述に多数の学習者が同意している(4.46)。人数の内訳でみると「非常に同意」と「同意」の合計が 50 名と、大多数であることがわかった。二年生の漢字学習が難しいのは数が多いためだという記述に対しての同意も多く(3.8)、「非常に同意」と「同意」を合わせて 40 名であった。これに比べ、漢字学習の困難がその他の理由に起因する(設問 25: 導入順序、26: 例の少なさ、27: 読み物との関連性のなさ)と答えた学生はそれほど目立っていなかった(それぞれ 2.5、2.5、2.7)。この設問 3 への回答では、「漢字に接触あり・なし」のグループ間で違いはほとんど見られなかったため、学習者はその漢字への接触の有無にかかわらず、履修すべき漢字の量が多いことが漢字学習の難しさの原因になっていると感じていることが明らかになった。設問 4 への回答では、二年生のコースで漢字の量が増えたことが漢字学習の困難の原因となっていると考えている学習者が、漢字への接触のないグループに多いようである。今回の調査では参加者の人数が少数のため統計的に有意の差があるかを分析することができなかったが、今後規模を拡大した調査では検討すべき点であるだろう。

自分で漢字学習にかかる時間数と努力度に関しての自由回答(設問 30)では、満足している・ちょうどよかったと思う・時間をかけただけ効果があったという回答が多い一方、10 名程度の学習者が不満だと答え、もっと時間をかける必要があった・時間をかけた割に記憶に残らなかったという回答も見られた。満足と不満が混ざった意見もあり、漢字学習に対する学習者の反応の複雑さが示唆される。(2)は両方が混ざった回答の例

である。漢字学習にかけた時間がテストの点数には十分に反映されないと感じる一方、記憶に残ったものは維持することができたと述べている。

- (2) The time that I spent studying always paid off, and I never felt as if studying the Kanji each week was something that I didn't want to do. The biggest problem is that despite there being a Kanji quiz every week, they make up only a very small percentage of one's overall mark. [...] despite a lot of time spent, I found that when the time came to write a test, I had forgotten a good chunk of kanji. However, what I did retain, I retained very well and concede that the way it was presented by the instructor was very good.

### 3.4.2 学習者が使用している漢字自習のためのストラテジー

設問 5 から 11 の回答は、学習者が漢字の「形」を覚えるために使用しているストラテジーについてである。学習者全体が一番よく使うストラテジーとして挙げたのが「設問 11：紙に書いて」形を覚えるという方法である。「設問 5：絵と関連づけて」覚える方法への評価は漢字に接触あり・なしのグループの平均値がそれぞれ 2.40 と 3.28 で、グループによって受け止め方に違いがあることを示唆している。また、接触のないグループのほうが「設問 6：すでに習った漢字と関連づけて」覚える方法をより頻繁に使っているようである。接触がないグループは現時点での漢字語彙の全体量が限られているため、このような方法が接触ありのグループに比べてより有効と考えられている可能性がある。

設問 12 から 17 は新しい漢字の「意味」を覚えるストラテジーに関する記述である。意味を覚えるのにも、学習者が最も有効だと考えるストラテジーは「設問 17：紙に何度も書く」ことであった。他には「設問 16：意味を表す部首を使う」方法や「設問 14：文の中で」覚える方法も有効でよく使うとされていることがわかった。また「設問 12：似た意味を持つ

漢字とまとめて」と「文の中で」覚える方法は漢字への接触のあるグループが多く、「部首を使う」方法は接触のないグループが多かった。

設問 18 から 24 は新しい漢字の「読み」の学習法に関する記述である。ここでも「設問 23 : 声に出しながら書いて」や「設問 22 : 見ながら何度も声に出して」のように作業をしながら覚えるやり方が最も有効だとされていた。グループ間での違いを見ると、漢字への接触のあるグループは「設問 19 : 自分の母語と似た読みの言葉と関連づけ」たり「同じ読み」もしくは「同じ読みの部首」を持つ漢字とまとめて覚えたり、自分のすでに知っている漢字の読みの知識を活用して新しい漢字の読みを学んでいる傾向が現れた。漢字への接触のないグループはコース外で習得した漢字の語彙数が限られているため、読みに関しては比較すべき漢字がそれほどない可能性がある。

全体として、120 字の漢字履修後の学習者を対象にした Gamage (2003) の結果と同様に、520 字の漢字履修後の学習者でも、漢字への接触の有無にかかわらず、書く、もしくは声に出すという単純作業を繰り返して覚える方法が最も使用されていることがわかった。その他のストラテジーに関しては、学習者の漢字への接触の有無によって有効性の評価に差が見られた。

### 3.4.3 「漢字リスト」の評価

設問 28 で聞いた「漢字リスト」の内容に対する全体の満足度に関しては、「満足」「非常に満足」と答えた学生が 26 名で約半数となり、「やや満足」も入れれば 55 名と、大多数の学習者が現在の「漢字リスト」に満足していることがわかった。

「漢字リスト」の良いと思った点（設問 31）として自由回答で得られたコメントでは、全体のリストがあらかじめ提示してあることやレイアウト・フォーマットがわかりやすく適切であるといった機能的なものから、

該当年の漢字小テストでは Core Words に焦点を合わせることになったというコースにまつわるものまで、さまざまであった。細かい面では、三つの異なったフォントがあること、部首が示されていること、リンクを通して書き順が見られることなどの回答があった。個々の漢字が部首別に導入されていることや授業で扱う漢字と呼応していることが良いとしたものもあった。良い点で最も多かったのは、例語や例文の内容という意見であった。役に立つ、おもしろい、コンテキストのある文中で使われているなど、個々の漢字を効果的に覚えるためには適切な例語や例文が必須であることがわかった。また、本ではなくオンラインでいつでもどこでも見られるのが良いというコメントもあった。良い点についての回答例を (3) に示す。

- (3) The Kanji Lists were fantastic, and contributed greatly to my learning experience. They were formatted very nicely and were easy to read, with lots of useful information, important words, and sample sentences. I also really liked that they were PDF files, which meant that I could put them on my phone and study them on the bus or anywhere else. I think that fact was important for my success on the quizzes, and isn't something that I could have done if I was dealing with a big book instead.

「漢字リスト」の良くないと思った点 (設問 32) の自由回答では、導入する漢字の数が多すぎる、導入順序が易しいものから難しいものになっていない、授業で扱う漢字・漢字語彙とさらに関連づけてほしい、時々手書きとフォントの形が合わないケースがある、英訳でわかりにくいものがある、などがあった。例語・例文の量に関しては、多すぎると足りないが両方見られた。良くない点は「なし」と答えた学習者も7名あった。良くない点で最も多かったのは、自分たちの日常生活であまり使われない言葉が入っているというものであった。(4)はその回答例である。



- (4) I didn't like that there was alot [sic] of words that we wouldn't use in everyday life. I feel like we are learning too much vocabulary that is for reading at a high level as opposed to everyday conversation.

良くない点はどうすれば改善できるかという質問（設問 33）への自由回答では、導入の順序を難易度や似た部首などに従ってさらに入れ変える、新出漢字は授業で繰り返し使う、もっと読解文に関連した導入の仕方をする、熟語になる漢字をなるべく併記する、などがあつた。リストの形式に関する意見では、例文の英訳をもっと細分化する、個々の漢字の表に絵などを加えるといったものから、ワークシートやオンライン副教材をつけ足す、漢字小テストの回数や項目の数を見直す、といったものまで様々であつた。その他の意見では、もっと日常会話でよく使用する語彙、例えば「定」には「予定」などより教室外でもビデオゲームなどでよく使う「設定」を導入してほしい、「大丈夫」という言葉で使う漢字を導入してほしい、といった具体的なものも見られた。教師側の意図とは別に、学習者は個人の必要に応じた漢字語彙の習得を求めていると言える。

#### 4. オンライン教材調査

##### 4.1 背景

「漢字リスト」への反応を調査した際、学習者が評価していた一つの特性はオンラインによるアクセスの便利さだった。では一般向けのオンラインの漢字教材と比較した場合、その有用性はどうか評価されるのだろうか。例えば鈴木（2012）は、学習者は辞書アプリやウェブ上のオンライン辞書をよく使用していると報告している。「デジタルネイティブ」と呼ばれ（鈴木、2017）、幼いうちからパソコンやインターネットを駆使する世代が増えてきた昨今、この傾向はますます強まるであろう。鈴木は調査対象は日本国内で日本語を学ぶ JSL（Japanese as a second language）学習者であつたが、教室外で日本語に接する機会が限られている JFL（Japanese as a

foreign language) 学習者の場合、よりオンラインでアクセスできるツールに頼る傾向が強いだらうと予想される。

そこで、2018年に二年生と三年生のコースを修了した学習者を対象に、コースで使用する教材の他に自主的に併用している無料のオンライン教材についてアンケート調査<sup>(8)</sup>を行ったところ、回答した13名の学習者の大半は、授業で使用する漢字教材だけでなくオンラインにあるリソースを補助教材として積極的に使用していることが判明した。その主な理由として、「漢字の読み書きを知るため」「漢字の意味を調べるため」「漢字が例文中でどのように使われているかを知るため」のそれぞれにほぼ同数の回答があった。役立っている点として「持ち運びに便利」「正確である」「携帯で漢字が“draw”できる」など、学習者はその利便性と機能性を高く評価している。その一方で、検索の仕方や自分が調べた漢字の使い方がわからず、時間の無駄だという回答もあった。学習者の日本語能力では表示されている例を弁別することが困難で、オンライン教材を活用することの難しさも物語っている。学習者はコースの教材でもオンライン教材でも共通して、例語や例文の有用性を重んじていることが明らかになった。

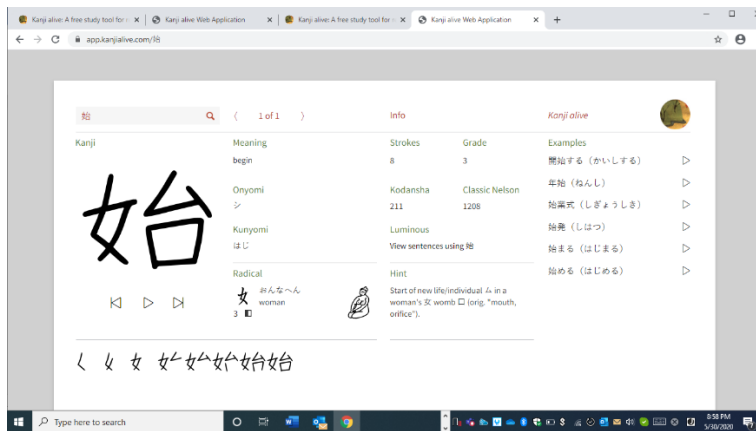
## 4.2 二つのオンライン教材

ここでは、学習者がよく使っていると報告のあったオンライン教材 *Kanji alive* および *jisho.org* の内容を紹介し、当大学の日本語コースを履修している学習者がこのようリソースをどう自律学習に役立てることができるかを考察する。基本的に、「漢字リスト」がコースの授業内容になるべく沿った漢字・漢字語彙・用法を紹介する教材であるのに対し、*jisho.org* は一般語彙の意味と用法を調べる辞書、*Kanji alive* は漢字・漢字語彙・用法の紹介が主な目的で部首などからも調べられる学習ツールである。二年生で導入されるいくつかの漢字を選び、その漢字の情報がそれぞれ

れのオンライン教材でどのように表示されるかを、検索の利便性に加え、内容が学習者にとって適当な量・質であるかを調査した。

検索例として選んだ漢字のうち、図2で紹介した「漢字リスト」の漢字「始」に関しての情報を以下で説明する。図5はオンライン教材 *Kanji alive* の「始」の画面である。

図5 *Kanji alive* の「始」の画面



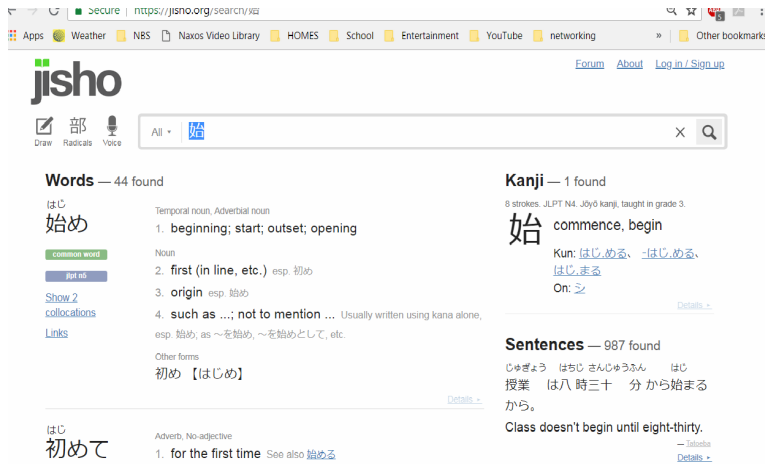
This image from *Kanji alive* is reproduced with permission via a CC-BY 4.0 license.

まず、初めてこの教材を利用する場合、**Overview** のページのどこから検索画面に行けるのか戸惑う学習者がいると思われる。実際は画面上部のリンクからすぐに飛ぶことができるのだが、それに気がつかないと検索用のボックスを探して画面上を行ったり来たりすることになる。漢字一字もしくは意味からの検索が可能だが、「始める」のように送り仮名をつけてしまうと正しい漢字に辿り着かないため、漢字のみ、あるいはひらがなのみを入力する必要がある。検索結果画面には、書き順・音読み・訓読み・部首・小学校での導入学年・漢字語彙例などの漢字の情報が一ページに簡潔に表示されている。例として出されている6語のうち、「開始する」「始まる」「始める」は当大学の読解教材でも使用されている。スピーカアイコンをクリックすることで発音の再生、**Advance search** を使えばローマ字

や主要な日本語の教科書に導入されている順での検索も可能である。ただし、漢字を使った例文は表示されない。リンクから辞書サイトを見ることは可能だが、日本語母語話者向けの辞書（『ルミナス英和・和英辞典』）の例文が大量にあるため、学習者の日本語能力によっては難易度の高い例文も多く表示されている。今回のアンケートに回答した学習者が望んでいる例文の紹介という点においては、レベルが必ずしも適切ではないものも含まれていることを学習者は知っておかなければならない。

図 6 はオンライン教材 [jisho.org](https://jisho.org) の「始め」の画面である。

図 6 [jisho.org](https://jisho.org) の「始め」の画面



検索は日本語・英語・ローマ字等での入力が可能である。その他、漢字を自分で書いたり、部首や音で入力することもできる。漢字一字「始」で検索すると、「始め」「初めて」「始まり」「始終」「始発」のように漢字語彙例が 20 語提示され、その中には「初めて」のように「始」を使わない例も含まれている。スクロールしていくと「始」の意味と訓読み・音読みが表示されている。20 語のうち、例文が出てくるものと出てこないものがある。例語や例文の量が膨大で、例文は [tatoeba](https://tatoeba.org/) というオープンウェブ上のリソースから取られているため、内容の正確さに疑問があることもある（例えば、「始まる」の例文中の「三十分」の読みが「さんじゅう

ふん」になっている)。また、用法が多岐にわたって紹介されているため、学習者にとってはどれが現在日常的に使われているものか判断しづらい可能性があることがわかった。他に十例ほどの字についてコースで使用している「漢字リスト」とこの二つのオンライン教材を比較したところ、同様の結果が見られた。

コースの教材に準拠している「漢字リスト」は、使い易さや漢字テストの準備等の負担を考慮し情報量を限定してあるため、学習者が自分で作文等を書きたい時には十分な情報が得られない可能性がある。そのような状況で学習者が利用しているオンライン教材 *Kanji alive* については、検索の仕方に少し慣れが必要ではあるが、漢字一字についての情報がコンパクトにまとまっており、漢字語彙例の内容も適切なものを選択してあるので有用な教材であると言える。しかし、熟語での検索が出来ないなど、語彙レベルではなく文字レベルなので、実際の読み書きの練習に使用するというより、文字ごとの漢字学習の情報を得る上でより役に立つであろう。これに対し [jisho.org](http://jisho.org) では、手軽に語彙レベルで調べることが可能である。ただ、例語や例文の量が膨大で、例えば二年生の学習者の能力では判断が難しいと思われる情報も多く含まれているため、そこから必要に応じて取捨選択する必要がある。コースの教材と学習レベルに準じた情報が得られる「漢字リスト」に対し、今回調査した二つのオンライン教材は、どちらも漢字や例語の意味や使い方などが豊富に提示されている反面、学習者が必要な情報を選び取るのが困難な可能性があることがわかった。

## 5. 考察・今後の課題

### 5.1 学習者の漢字学習ストラテジーと漢字教材

アンケート調査の結果、カナダで日本語を学ぶ当大学の学習者は、覚える漢字の量に負担を感じ、自分の努力に不満を持っている者もいることが明らかになった。漢字学習のストラテジーに関するアンケートでは、二年

生においても新しい漢字を紙に書いて覚える方法が「形」「意味」「読み」のすべてにおいて最も有効だと考えられているなど、学習者が多用する学習法として Gamage (2003) を裏づける結果が得られた。使用するストラテジーの違いについてはより参加人数の多い調査を行なう必要があるが、グループ間で差を示唆するものもあった。漢字への接触があるグループではすでに持っている知識を利用して新たな漢字の読みや意味を学ぶ助けにしていると見られることから、接触のないグループにも類似のストラテジーを使用する助けとなるよう、個々の漢字のみの提示ではなく、類似の形や音を持つ漢字との関係をよりわかりやすく提示することが必要だと考えられる。その他のストラテジー使用の傾向として、視覚に訴える方法よりも、コンテキストに関連づけた方法や、意味の暗記や発音の繰り返しなどの機械的・単調で「地味な」方法が学習者に有効だと思われることがわかった。繰り返し作業だけでなく、すでに持っている漢字の知識を最大限に活用して漢字を覚えることを推奨する指導の必要性が課題として挙げられる。

また、本稿では当大学の「漢字リスト」作成の過程を報告したが、アンケート調査の結果、学習者はおおむね新しく開発された漢字教材を好意的にとらえていることが判明した。また、学習者が授業で提供されている漢字教材に求めているものは、導入する漢字の数が多すぎないことに加え、読解教材への関連性や導入される漢字相互の関連性、学習者が「よく使う」「役に立つ」と思う漢字が選択されていることであった。さらに学習者は漢字を理解する上で、例語や例文が非常に重要だと感じていることも明らかになった。導入される漢字の語彙が日常生活において役に立つものであるかという点では、新教材に関するアンケートの回答（「設定」や「大丈夫」などの例）に見られるように、教師側の意図と学習者側が個人的に求めているものに乖離があることも判明した。新教材では今後もさらに、漢

字の導入順序や例語・例文の量を見直し、その内容も使用する学習者のニーズを考慮しながら常に改善していく必要がある。

## 5.2 オンラインの教材

オンラインの教材は知りたい情報を素早く調べることができ、現在多くの日本語学習者にとって欠かせないツールとなっている。しかし、今回の調査で明らかになったように、情報の正確さや内容の的確性が不明瞭なことも多いため、学習者にはツールの使い方に関しての指導も必要である。特定のツールが万能だと思わず複数を使用してみること、また鈴木 (2017) が指摘する通り、ツールで得られた検索結果を吟味し「考える」プロセス、すなわちツールの特性を見抜きそれを補う工夫をしたり、既存の知識に照らし文脈に適切な形に整える等を推進することが重要である。

JFL の学習者にとって、無料で利用できるオンライン教材は授業以外で日本語に触れる貴重な機会であることを考慮すると、これらの教材を効果的に使いこなせるよう教師が積極的に指導することで、学習者の自律学習がより促進されると考えられる。例えば、普段の授業で目にしない新出漢字や熟語をオンラインで調べる際には熟語の構成漢字を一字ずつ勉強するよう勧めることで、より漢字への理解が深まると言える。また、オンライン教材で表示される例文を参考に自分で似た文を作ってみることを推進することも一案であろう。

## 6. おわりに

グローバル化の進展やテクノロジーの発展とともに、今後も日本語を外国語として学ぶ学習者を取り巻く状況は日々変化していくことが予想できる。日本語教師は、学習者のニーズを考慮しながら教室内で使用する教材を改善していくだけでなく、学習者が教室外でどのようなオンライン教材を使用し、どのような困難を感じているかを把握しておくことが必要である。さらに、コースの教材とオンライン教材両方の使用言語が学習者に適

切であるかを判断し、学習者の求める情報がどのように得られるか、得た情報をどう産出につなげていけるかなどの指導も必要になってくると考えられる。学習者が主体的にリソースを利用する能力を身につけることが、より効果的な自律学習の促進につながるであろう。

## 注

- \* 本稿はカナダ日本語教育振興会年次大会で行った口頭発表「大学日本語コース用漢字教材作成・使用の試み」（2014年8月20日）「大学日本語コース用漢字教材の開発—学習者からのフィードバックを基に一」（2016年8月17日）および「オンライン教材と大学日本語コース用漢字教材—より効果的な自律学習の促進のために—」（2018年8月21日）を加筆・修正したものである。
1. 各コース終了時のレベルの詳細については次のリンクを参照のこと。  
<https://japanese.dlll.laps.yorku.ca/placement-test/>
  2. 他にカナダの大学生が二年生のコースの履修時点で使用しないであろうと思われる漢字として、「闇・熊・苛・曖」などが含まれていた。
  3. 頻度表では上位に位置していたが、最終的に「漢字リスト」には含まなかった漢字の例として、「郎・兵・吉・藤・江・宮・蔵・沢」などがある。
  4. 全体の表は以下のリンクを参照のこと。  
[http://buna.arts.yorku.ca/japanese/ijlt/jp2000\\_kanji/jp2000\\_kanji\\_table\\_order.htm](http://buna.arts.yorku.ca/japanese/ijlt/jp2000_kanji/jp2000_kanji_table_order.htm)
  5. カナダ在住の学習者の場合、母語が必ずしも一番得意な言語とは限らない。学齢期以前は家庭内で母語を話していたとしても、小学校入学と同時に学校で使用されている言語（英語）が一番得意な言語となっていく例がままある。その場合、例えば母語が中国語であったとしても漢字の読み書きはほとんどできないケース等も散見される。以上の理由で、日常生活における漢字への接触を問う設問の方が学習者の漢字知識のより正確な指標になると考えた。
  6. Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) は、オープンソースのeラーニングプラットフォームである。
  7. Gamage (2003) は、オーストラリアで日本語を学ぶ初級終了時点(120字の漢字履修後)の大学生を対象に、アンケート調査を実施した。特に学習者の言語的背景がアルファベット圏であるか非アルファベット圏であるかが、好まれる漢字学習ストラテジーに影響を及ぼすかどうかに着目した。結果として、繰り返し書いて覚える方法が最も頻繁に使用され、学習者が有効だと思うストラテジーは言語的背景の異なるグループ間で有意差が見られることがわかった。
  8. アンケートに答えた学習者がよく使う漢字教材として、Jisho (jisho.org)、Tagaini jisho (tagaini.net)、Kanji Study (app)、quizlet (quizlet.com)、WordReference.com (wordreference.com)、goo 辞書 (dictionary.goo.net.jp)、Weblio 英和・和英辞典 (ejje.weblio.jp)、Kanji alive (kanjialive.com) が挙げられていた。またコースの「漢字リスト」しか使わないという回答もあった。



参考文献

- 川口さち子 (2010) 「クラスの進度に沿った自主作成漢字教材の漢字提出の方法—パリ第7大学の Kanji Du Manuel について」 *Proceedings of the 17th Princeton Japanese Pedagogy Forum*, 115-131.
- 川口義一 (2010) 「漢字の新しい教え方：記憶、意味、方法」 *Proceedings of the 17th Princeton Japanese Pedagogy Forum*, 1-14.
- 鈴木智美 (2012) 「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 38, 1-21.
- 鈴木智美 (2017) 「辞書ツールは文法的正確さの産出につながるか—ICT時代の日本語学習者の効果的な辞書使用を考えるために—」 『日本語教育と日本研究におけるイノベーション及び社会的インパクト：第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集』 129-147.
- 當作靖彦 (2017) 「グローバル時代のつながる日本語教育：ソーシャルネットワークワーキングアプローチ」 『ジャーナル CAJLE』 18, 1-20.
- 徳弘康代 (2008) 『日本語学習者のためのよく使う順 漢字 2100』 三省堂
- 日本語能力試験の漢字(2006) <http://kanjionthejlpt.seesaa.net/> (2013年6月11日)
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011) 『初級日本語げんき II』 The Japan Times
- 文化庁 (2010) 『改定常用漢字』  
[http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/kaitei\\_kanji\\_toushin.pdf](http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/kaitei_kanji_toushin.pdf) (2013年6月13日)
- Gamage, G. H. (2003). Perceptions of Kanji learning strategies: Do they differ among Chinese character and alphabetic background learners? *Australian Review of Applied Linguistics*, 26, 17-31.

Hadamitzky, W. and Spahn, M. (2012). *Japanese Kanji and Kana: A Complete Guide to the Japanese Writing System*. Tokyo: Tuttle.

Jisho.org. Retrieved April 10, 2016, from <https://jisho.org/>

*Kanji alive*. Retrieved June 10, 2020, from <https://kanjialive.com/>

Tono, Y., Yamazaki, M. and Maekawa, K. (2013). *A Frequency Dictionary of Japanese*. London: Routledge.